



リハビリテーション医学全書

「脳卒中・その他の片麻痺」

福井 圀彦 編

リハビリテーション医学全書は、各分野における第一人者である先生方が執筆にあたっているだけに各巻とも充実した内容をもっている。本書「脳卒中・その他の片麻痺」も、その内容は原因疾患、診断、リハビリテーション総論、評価、観血的治療、運動療法、下肢装具、副子、神経筋促通法、作業療法、日常生活動作、自助具、失認症失行症、心理学的精神医学的な面、リハビリのための内科的管理、社会的側面の16章より成り、脳卒中片麻痺のリハビリテーションに関するほとんどの項目が網羅されており、各章ともたいへん分かり易く書かれている。

評価に関しては、impairment, disability, handicap のそれぞれの評価について実際の方法とその問題点が述べられており、なかでも disability の評価でもっとも重要な ADL については「できる ADL」と「している ADL」の問題が検討されており、実際に評価にあたるわれわれセラピストにとって考えさせられる点が多い。

神経筋促通法では発作後早期から安定期、完成期のアプローチを Rood の sequence に基づき、PNF や Brunnstrom 法を組み合わせる述べており、いわゆる facilitation technique を統合した形でとらえ、まとめられている。

ADL 訓練については、日常生活動作 (Activities of Daily Living) と生活関連動作 (Activities Associated with Daily Living) に分けて書かれており、自助具の章とともに多くの写真を用いて細かい点まで解説されており、実際に指導する場合たいへん参考になる。

以上述べた以外にも本書は脳卒中のリハビリテーション全般にわたる広範な知識、技術を体系的に良くまとめられており、実際に治療、訓練あるいは看護にあたる人々にとって良き教科書であり、その知識、技術の習得や整理に大きく役立つと思われる。

(A5, 525 頁, 医歯薬出版, ¥ 6,900, 1980)

(東京都養育院付属病院 理学療法士 太田 隆)